

2018 Vol.58 No.5 編集・発行(公社)日本糖尿病協会

月刊 糖尿病ライフ

さ ざ え

SAKAE

5

特集

糖尿病と高血圧

大石 充、湯浅敏典

特別企画1 2018 サマーキャンペーン開催に向けて 増田光男
特別企画2 防ごう、誤嚥性肺炎―歯科医師からの提案― 増井峰夫



巻頭特別対談

「健口」な

生活を送るために

―糖尿病患者さんのお口の健康を考える― 中川種昭、伴野祥一



2018 サマーキャンプ開催に向けて

サマーキャンプで新たな出会いと発見を



医療法人芙蓉会
村上病院 糖尿病内科
青森県糖尿病協会副会長
青森県小児糖尿病
サマーキャンプ実行委員

増田光男

わが国の小児糖尿病サマーキャンプは、1963年夏、東京大学の丸山博先生が千葉県勝山海岸で開催したのが始まりで、8人の1型糖尿病の子どもたちが参加して行われました。今から55年前のことです。その後、全国でキャンプが開催されるようになり、東北6県の子どもたちを中心に福島県で初めて開催されました。現在、キャンプの開催は全国に広まり、2017年は50カ所、1129人の子どもたちが集まって行われました。

キャンプの開催日数は3〜8日間。内容や対象年齢などは開催地によってさまざまですが、体験学習、野外炊飯、水泳、花火、キャンプファイアなど、いろいろなプログラムが用意されています。子どもたちが糖尿病に対する正しい知識や技術を習得し、多くの仲間との出会いを通して自立していくことを目的としています。

なお、キャンプは日本糖尿病協会(以下、日糖協)の支援の下、多くの医療スタッフやキャンプOB・OGを含めたヤング糖尿病の方々、そしてボランティアの皆さんの協力を得て行われています。小児期に突然発症した糖尿病の子どもたちやご家族にとっては不安がいっぱいだと思います。キャンプでは、同じ病気をもつ仲間がたくさんいます。「一人ではない、こんなにたくさんの仲間が元気でやっている」という姿を知ることができます。一人で悩むより、まずはキャンプに参加してみてください。思いを同じくした多くの子どもたち、ご家族と接することができます。

キャンプは子どもたちにとって楽しい毎日です。インスリン注射、血糖自己測定は欠かせませんが、同じ病気をもつ仲間と一緒に生活から、食事や運動の仕方、低血糖への対処法など多くのことを実践的に学ぶことができます。インスリンポンプで治療している子、持続血糖測定を行っている子もいます。ご家族の方にとっても、糖尿病治療に関する新しい情報を知ることができ、日ごろの悩みを相談できる良い機会でもあります。また、キャンプ中は小児科、内科の糖尿病専門医や看護師、管理栄養士などの医療スタッフがいつもそばにいて子どもたちを見守っていますので、安心して毎日を過ごすことができます。

さ ざ えん

7

SAKAE

7

日本糖尿病協会 糖尿病医薬品 医療機器等適正化委員会の取り組みから
インスリン製剤やGLP-1受容体作動薬を
識別する方法 朝倉俊成

プラスワン講座

インスリン注射としこりの
深くいつながらり 平岡美紀

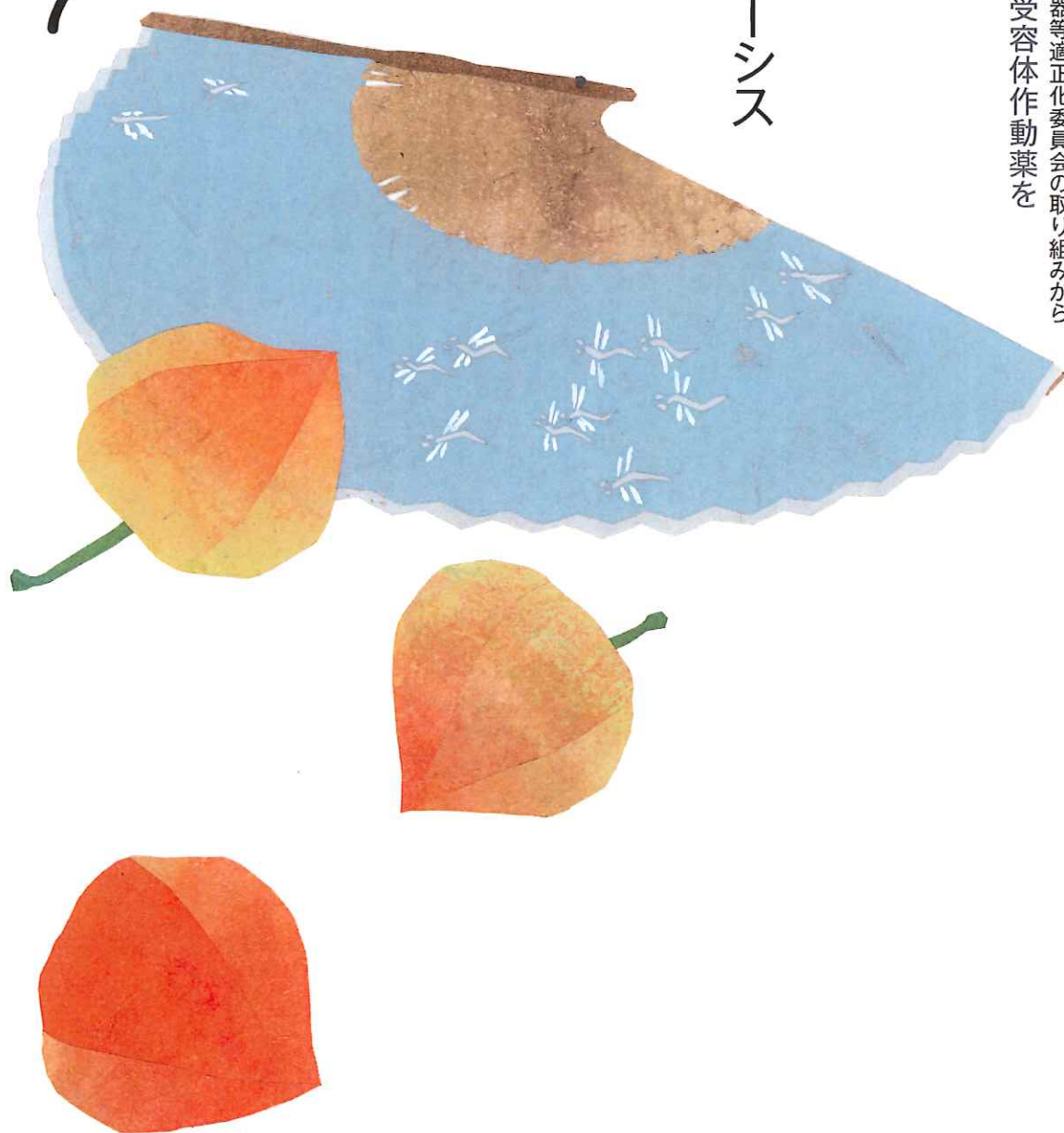
特集2

糖尿病ケトアシドーシス
を知る 高木聡、馬場園哲也

特集1

糖尿病腎症の治療を成功させよう！

赤井裕輝



石川県



北陸小児糖尿病サマーキャンプ

金沢大学医薬保健研究域保健学系

稲垣美智子

当キャンプは2017年で第43回を迎えました。発足当時、北陸では石川県のみがキャンプを開催しており、富山県、福井県も加えた北陸3県の参加者が集まる一つのキャンプでした。キャンプ名の「北陸」はその名残りです。大所

帯で4泊5日、とてもにぎやかなキャンプでした。現在は各県に分かれて実施されていますが、ポストキャンプパーは、もともと参加していたこともあり、何年ぶりであっても実家を訪ねるかのようになり立ち寄ってくれます。現在のキャンプの雰囲気は、発足当初から自由でゆるいといわれ、開催者としては、葉っぱと捉えて継続しています。キャンプで大切にしていることは、「人と人とのつながること」です。先輩、後輩、医療者、小中学校の教員、ライオンズクラブの方々、医療機器の専門家の方々、匠(たくみ)の技を持った人など、つながりを持てる人々は数え切れません。子どもたちだけではなく、ポストキャンプパーも大人も、さまざまなつながりを得ています。今年もまた、楽しい夏キャンプの時期を迎えます。

日本糖尿病協会が主催する幼児・高校生対象の小児糖尿病キャンプを紹介します。

小児糖尿病 キャンプ紹介 ⑳ 石川県



小児糖尿病キャンプを支える “TOOTH FAIRY(歯の妖精)”

小児糖尿病キャンプは、公益社団法人日本歯科医師会が協力して日本財団が行う「TOOTH FAIRYプロジェクト」から、毎年多大なご支援をいただいています。

TOOTH FAIRYとは、欧州に伝わる歯の妖精のこと。子どもが抜けた乳歯を枕元に置いておくと、夜中に妖精がやって来て、プレゼントと交換して持っていきと伝えられています。このお話を基に、歯科医師の先生方と患者さんが治療で役目を終えた金属を提供し、日本財団がリサイクルして資金化し、小児糖尿病の子どもを支援しています。このプロジェクトに参加する歯科医院は、全国で約6,600施設に上ります。

また、プロジェクトを通じて多くの歯科医師が小児糖尿病キャンプを訪問し、キャンプの口腔(こうくう)ケアや歯科教育を行ってくださっています(写真)。歯周病は糖尿病の第6の合併症といわれており、糖尿病をもつ子どももその例外ではありません。糖尿病と共に歩む人生で歯周病から糖尿病を悪化させることのないよう、先生方はボランティアで参加して下さっています。こうした活動は、キャンプをベースにした医科歯科連携にもつながっています。



TOOTH FAIRY

さ ざ え

SAKAE
11

特別企画

血糖自己測定器を正しく使えていますか

日本糖尿病協会 糖尿病医薬品医療機器等適正化委員会 S.M.B.G.ワーキング

世界糖尿病デー特別座談会

お薬があなたの元に届くまで

— 医薬品卸・薬局の取り組み —

武田純、堀口道子、飯村誠一郎、木俣昌弥

特集1

内臓脂肪のつきにくい

食生活の工夫

坂根直樹

特集2

メタボ肝がんで、何ですか？

角田圭雄

新連載 あなたとわたしの療養指導 酒井孝征

プラスワン講座 ワインのある糖尿病生活 田中永昭



歯科口腔ケアボランティア活動報告

小児糖尿病患児の療養支援と仲間づくりを目的として、日本糖尿病協会は毎年小児糖尿病キャンプ(以下、キャンプ)を実施しています。キャンプ運営にご支援をいただいている「TOOTH FAIRY」プロジェクト※の一環で、数年前から歯科医師の先生がキャンプにボランティアで参加し、子どもたちに口腔ケアの大切さを伝えてくださるようになりました。2018年夏、兵庫県のキャンプに参加した歯科医師の先生方から、歯科口腔ケアボランティア活動のご報告をいただきましたので、お伝えします。

井上歯科クリニック
(西脇市)
いのうえしゅういち
井上修一

鈴木歯科クリニック
(神戸市)
すずたあきひこ
鈴木明彦



鈴木先生(左)と井上先生(右)

キャンプ実施責任者より

口腔ケアの大切さもキャンプで指導する必要があると日本糖尿病協会から指摘を受けて、4年前から歯科の先生方にご指導いただいております。実際に歯垢の染め出しを行い、紙芝居、模型を使った分かりやすいお話をしていただき、子どもたちのみならずボランティアも関心を持って指導を受けています。日常生活でも口腔ケアを続けてくれることを願います。丁寧な歯磨きの習慣をつけて健康な歯を維持できるようにするためには、歯科の先生方との連携は大変大切であり、今後も継続していきたいと思っています。

(兵庫県糖尿病協会小児糖尿病部会
会長 高橋利和)

2018年8月14日(火)、兵庫

県立南但馬自然学校で開催された兵庫県小児糖尿病サマーキャンプに参加し、11時から14時まで、小中学生35人を対象に口腔チェックと講話を行いました。

口腔チェックでは、歯垢(しこうプラーク)染め出し剤による歯垢の染め出しをした後、お口の状態を手鏡で見てもらい、歯ブラシをしていただきました。短時間での完全な歯垢除去は困難であることをつかかってもらえたと思います。

講話は、鈴木先生がむし歯を担当。歯面に付着している歯垢の中にむし歯菌や歯周病菌が繁殖していることなど、むし歯や歯周病の発生機序を説明しました。歯周病

は井上先生が担当。写真を見せながら歯周病の怖さを説明しました。

【感想】
(鈴木)今回2人の歯科医師で担当しましたが、35人の児童生徒に説明するのはしんどかったです。また、子どもたちが幼少期から自分の食べる量に合ったインスリン投与量の計算をしているのを見て感服しました。歯磨きも同じように子どもの頃から習慣づけをするのが大切で、大人になってからでは遅いのです。したがって、少数のグループに分けて丁寧に歯ブラシ指導をした方がよかったです。

(井上)小中学生合わせて35人を対象に歯磨き指導を行いました。年齢の幅があるので、その学年に合った指導方法という点で課題が残りました。次回参加できるなら、違ったやり方をできればと思っております。ただ、小学4年生の子どもが歯周病と糖尿病の関連についてかなり気にしていたのが印象的でした。また機会があれば参加したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

※TOOTH FAIRYとは、欧州で伝わる歯の妖精のこと。子どもが抜けた乳歯を枕元に置いておくと、夜中に妖精がプレゼントと交換して持っていくと信じられています。この話をもとに日本歯科医師会の先生方が治療で役目を終えた金属を提供し、日本財団がリサイクルして資金化し、難病の子どもを支援する資金として提供していただいております。このプロジェクトに参加する歯科医院は、全国で約6600施設に上ります。

